

る危険性を孕んでいます。2ヶ月程前にカブールでアメリカ軍が起こした交通事故故がきっかけで、デモや暴動があつという間に全国に広がり、数日間非常に緊迫した状況でした。

加えて、アフガニスタンではまだまだ地方軍閥が勢力を保ち続け、反政府分子がテロ活動を展開し、国の安定を阻害しています。ちよつとしたきっかけが、反分子が行動を起こす格好の言い訳となります。

■治安は悪化するばかり

治安保持の目的でアメリカ軍や多国籍軍が駐在しています。多くのアフガニスタン人はその存在を好ましく思っていないが、彼らがいなければ状況が好転するかというそれは未知数でしょう。ただ、その外国軍を狙つての事件が多発していることも確かです。タリバン含む反政府勢力が反外国と政府転覆を狙いテロ活動を展開しています。今まで例のなかった自爆テロも二〇〇五年頃から報告されるようになりました。例年冬場はテロ活動が鈍化する傾向がありますが、今年は自爆テロを含め反政府活動が増加しています。現在テロ活動が活発なのがタリバン基盤の南部、保守派の多い東部と首都のカブール市内です。特に南部では、

外国部隊配置編成でアメリカ軍から多国籍軍が入れ替わるのに伴い、テロ活動が激化しています。学校が焼かれ、教師が殺害され、何百という学校が閉鎖に追い込まれました。道路建設中の技師やスタッフを狙われ、建設された道路は爆破されています。地方政府の職員も反政府分子のテロ対象となるため、誇張ではなく命がけで仕事をしていることを思うと頭が下がります。

南部カンダハルでは、いくつかの国連機関が治安を憂慮しインターナショナル・スタッフを他都市に移動させる措置をとる程に緊迫し、今後の状況が懸念されます。

現在所属する国連児童基金も何度かテロの標的となりました。昨年のグアンタナモ刑務所でのコーラン冒流事件を発端とした暴動で東部ジャラバードの事務所が破壊され、また数ヶ月前には西部で移動中の車にロケット弾が打ち込まれ、運転手は死亡、同乗していたスタッフは大怪我を負い、現在も入院中です。これはユニセフが標的というより反外国ということターゲットにされてしまった悲しい事件ですが、国連機関も十分反外国の標的の対象になり得るのです。

一緒に仕事をしている現地スタッフの多くは計画を立てるのが苦手です。また

中長期的な個人的な人生プランを聞いても、「先のことは分からない。だって、人生いつ何があるか分からないから。」と答える人が何人もいます。長い戦争でその日その日を生き延びるのが精一杯だった人々が計画を立て、計画通りにことを進めていくのが難しいのも理解できます。

治安の安定はアフガニスタンの復興開発の鍵です。アフガニスタン人が人生計画を立てられるようになる時がアフガニスタンの本当の平和と安定が訪れた時なのかも知れません。残念ながらその時が来るのはまだ先のように思われますが……。

(きたはら・としこ、国連児童基金アフガニスタン駐在員)



アフガニスタンからの報告

本当の平和と安定はいつ来るのか

北原 聡子

初めてアフガニスタンにやって来てから、はや四年が過ぎました。

当初、国連児童基金がアフガン暫定政権と協力し実施する全国規模の教育支援プログラム「バック・トゥ・スクール（学校へ行こう）」キャンペーンを東北地方のバダクシヤン州で担当するため、アフガニスタン入りしたのは二〇〇二年三月でした。

ファイザバードへの出発前、何人も人からファイザバードは中世のような場所だと聞かされていましたが、それは驚く程にぴったりの表現でした。近代的なものには目に入らない。交通手段は口バ、道にはヤギや羊の群れが行きかっている。当時自家用発電機のある家はほとんどなく、私達のゲストハウスにのみ寂しく灯りが燈っていました。夜が深まり発電機が止められると辺りは文字通り真っ暗です。来る前の治安の心配も杞憂のようでした。

そんな中世ファイザバードにも徐々に店の数が増え、民家が改築、増築され、車の数が増え、プラネタリウム並みの星空を楽しむには明るすぎる程の明かりが

燈るようになってきました。そして二〇〇四年には事務所は何回もロケット弾が見舞われる程治安が悪化してきました。

とある所で出会った在アフガニスタン五〇年のフランス人女性の来アフガニスタン当初の写真を拝見したことがありますが、今も五〇年前もあまり変わっていないアフガニスタンの田舎の風景が広がっていました。日干し煉瓦に泥塗りの手作りの家々、埃っぽい土の道、大人や子供達の服装など、去年撮影したと聞かされても信じてしまいそうな程変化のない様子は微笑ましくさえ思われました。

首都カブールでは建設ラッシュが進み、お店にはものがあふれ、女性もブルカを脱ぎ、おしゃれな服に身をまとい、戦後復興を感じさせます。地方都市でも同様な傾向があると思いますが、それは中心部のみの例外で、農村部と分類される地方ではその恩恵がなかなか広がっていないという歴然とした格差があります。また、都市でもインフレが進み、住民の経済格差は広がっているようです。私の同僚の現地スタッフも、特に家賃がうなぎ上りでもうカブール市内には住め

ない、とぼやいていました。

■進まない復興開発

では、復興開発に投資されたはずの何十億ドルという国際支援はいつたいどこに使われ役立っているのでしょうか。

多大なる国際社会からの支援は、選挙を含む政府のソフト面、ハード面の支援、軍閥解体、国軍整備、法整備、社会インフラ整備、難民帰還支援、地雷除去、教育（特に女子教育）支援、保健衛生支援、国の主要産業である農業支援、麻薬対策などなど、多岐に渡ります。二三年間の戦闘であらゆるものが破壊されつくされていきましたから、多くの分野がどれも最優先課題で、しかもゼロからでなくマイナスからの出発です。

二〇〇四年一〇月の大統領選挙は70%以上の投票率で、国民の政治に対する期待と将来への希望が感じられました。二〇〇五年九月の議会選挙では投票率約50%と大幅にダウンしました。国の復興開発が遅々として進まない事態に国民が絶望し、不満が広がっているようです。物価は上がる一方だが、お給料は上がらない。お給料どころか多くの人には仕事もない。開発の恩恵に与っていない、と……。現在のアフガニスタンではそのような不満が、ちよつとしたきっかけで爆発す